

普及センターだより

第59号 平成28年2月10日発行

天井部が開口

手動による天井部開閉

フルオープンハウス導入による 夏期施設野菜の安定生産

(京都市北区大宮) 調査内容は次ページに掲載しています。

普及センターの調査研究活動を紹介します

普及センターでは、新技術を導入する際に、地域で普及できるか現地実証試験を実施するなど調査研究活動を行っています。今回は野菜の調査研究活動について紹介します。

夏期トウガラシにおけるフルオープンハウス導入効果

京都市北区を中心に、賀茂なす、トウガラシなどの施設栽培で夏期の高温対策にハウス天井部開口型のフルオープンハウスが導入されています。今年度に鷹峯とうがらしを用いて行った、同ハウスの導入有無（試験区、対照区）での収量、品質面の調査結果をお知らせします。

耕種概要 調査ほ場所在地 北区大宮 栽培面積 113㎡（各区とも）
定植日 4月3日 栽植密度 1.6株/㎡

調査項目 開花数、着果数、成果数、尻腐果数、施設内温度（各平均日最高、最低、平均）（8月3～31日調査）

調査結果 収量、品質面では、試験区は対照区に比べ着果率（着果数/開花数）及び商品化率（成果数/成果数+尻腐果数）とも高く、フルオープンハウスの導入効果が見られます（表1）。

その理由は、日最低温度では両区とも差はありませんが、日最高温度では、試験区は対照区に比べ5.4度気温が低く、着果数が安定し、尻腐果数が減少する要因となっています（表2）。

導入費用 調査施設は既存パイプハウス（間口6m×30m）の改良工事で約30万円（税別）です。

表1 着果率及び商品化率（%）

試験区		対照区	
着果率	商品化率	着果率	商品化率
70.5	90.6	30.8	79.9

表2 施設内温度（℃）

	試験区	対照区
日最高温度	34.9	40.3
日最低温度	21.5	21.6
日平均温度	26.8	27.7

ナスのうどんこ病に対する薬剤の防除効果

ナスのうどんこ病は薬剤耐性が発達しやすく治療効果がある薬剤も少ないうえに、秋期に果実のがくにうどんこ病が発生すると、出荷できないことが問題となっています。そこで、ローテーション防除の薬剤を選定するために、登録薬剤（ダイアメリットDF、アミスター20フロアブル、モレスタン水和剤、プロパティフロアブル）の効果確認調査を実施しました。

調査場所 京都市西京区大原野、向日市、長岡京市

調査項目 散布前後の葉面の発病程度

調査結果 調査した4剤は、いずれも発生初期の治療効果が見られました。また、モレスタン水和剤では、中程度の発生段階でも治療効果がありました。ただし、薬剤の効果を得るためにはムラなく散布することが重要ですので、ていねいな散布を心がけてください。

今後の対応 次年度以降も他の薬剤で効果を確認し、うどんこ病のローテーション防除の薬剤選定を継続して検討します。

熱水土壤消毒による九条ねぎのネギ黒腐菌核病対策

京都市内全域で九条ねぎが栽培されていますが、冬に発生するネギ黒腐菌核病が問題となっています。この病気に感染すると株元が腐り、出荷ができなくなります。このため、新しい土壤消毒法である熱水土壤消毒に注目し、試験研究機関とネギ黒腐菌核病に対する防除効果を調査しました。

調査結果 無処理区では黒腐菌核病による株枯れが発生しましたが、熱水消毒した九条ねぎは草丈も順調に推移しました。収量調査時、対照区では九条ねぎの株元に24.5%の病徴を確認しましたが、熱水消毒区では認められませんでした。この結果、1本当たりの重量や出荷割合も熱水消毒区が上回り、土壤消毒の効果が確認できました。

今後の対応 土質による防除効果の安定性や1回の熱水消毒で効果が持続する期間など、試験研究機関と協力しつつ、今後も生育や収量調査を継続することで熱水消毒の有効性を検証する予定です。



熱水土壤消毒の様子



九条ねぎの生育と黒腐菌核病感染状況（左：対照区、右：熱水消毒区）



京北地域におけるエダマメ品種「紫ずきん3号」の普及

京都市右京区京北地域では、ブランド京野菜「紫ずきん」の栽培が盛んですが、現行の品種（紫ずきん1号）では、ダイズモザイクウイルス（SMV）による茶しみ莢が原因で外観品質が低下し、出荷量減少の原因となっています。

その対策としてSMVの抵抗性を持ち、ウイルス性の茶しみ莢が発生しない新品种「紫ずきん3号」が京都府生物資源研究センターで育成され、今回、現地に普及するため現地実証試験に取組みました。

調査結果 同品種の研究所のデータでは開花期、収穫期とも現行の品種と変わりませんが、気候風土の異なる現地試験の結果も同様でした。栽培農家によると、「現行品種とほとんど変わらず栽培できた。」とのことでした。

今後の対応 生育調査等のデータを取りまとめ、栽培マニュアルを作成し、「紫ずきん3号」への更新を円滑に進めていきます。



生育の様子（左：紫ずきん3号、右：紫ずきん1号）



紫ずきん3号の着莢の様子



「援農隊」による
ハウス内の
後片付け



「援農隊」に
農作業をお願い
してみませんか？

定植時期や収穫時期などは、多くの労働力が必要となり、「人手不足」が農家の共通の悩みです。そこで、京都府ではNPO法人に委託して、そのような時に農作業を手助けする「援農隊」を派遣し、農家をサポートする活動を始めました。

「年間通して雇用するほど仕事やお金はない・・・」「規模は小さいけれど一時的に手がまわらない・・・」そんな兼業農家の方でも大丈夫です。

もちろん、全くのボランティアという訳ではありませんので、農産物などのお礼が必要ですが、この機会に交流も期待できます。

ご興味のある方は普及センターにご相談ください。



地域で大活躍

「頼れる農業士さん」

地域と若手を温かく支える

石田 知史さん

住宅が立ち並び京都市右京区嵯峨野で農業を営んでおられる石田知史さん。直売ほか、スーパー、高齢者福祉施設などに出荷をされています。少量多品目生産が求められるため年間80品目近くを栽培し、また、環境にやさしい農業を心掛けて出芽・定植以降は農薬の使用をできるだけ控えているとのこと。「細かい管理が必要なので本当に大変です。でも、わざわざ足を運んで喜んで買ってくださいのお客さんを見ると、ありがたいことだと思います。」

息子さんが3年前に就農され、2人で農作業を行うことが多くなりました。「できるだけ息子の意向を取り入れるようにしています。思い通りにならなくても、その経験を今後の農業に生かすことが大切ですから。」と、温かく見守っておられます。

「我が家もそうですが、この太秦地域には若い人が多く、太秦農事研究会という組織もあります。若い人が地域の情報を共有し、力を合わせて頑張れるよう応援したいと考えています。」と柔らかな口調ながら熱い思いを語っておられました。



平成27年度 京都府農山漁村伝承優秀技能認定(農の匠) 及び 京都府農山漁村伝承技能登録の紹介

農の匠



松尾義平さん
(鉢物花き栽培、京都市)



宇津弘三さん
(バラ栽培、長岡京市)

伝承技能登録

- 南野信一さん (すぐき漬け、京都市)
- 音川次清さん (堀川ごぼう栽培、京都市)
- 荒木 稔さん (もぎなす種子保存、京都市)
- 松浪長雄さん (たけのこ・なす栽培、京都市)
- 村田治夫さん (九条ねぎ栽培、京都市)
- 百田 宏さん (トマト養液栽培、京都市)
- 中西義明さん (てん茶栽培、京都市)
- 和田 毅さん (なす栽培、向日市)
- 湯川周子さん (味噌づくり、長岡京市)
- 吉田俊晴さん (バラ栽培、大山崎町)
- 島 義實さん (京山科なす栽培、大山崎町)

新任の農業士さん よろしくお願ひします

〈指導農業士〉



吉川正幸さん
(京都市伏見区)

〈女性農業士〉



石原麻美子さん
(京都市西京区)



森田秀子さん
(長岡京市)



鳥 照子さん
(大山崎町)

〈青年農業士〉



森田晃司さん
(京都市北区)

退任の農業士さん ありがとうございます

〈女性農業士〉

林 美代子さん (京都市山科区)

大橋加津子さん (京都市南区)

中嶋のぶ子さん (京都市伏見区)

能勢万祐子さん (長岡京市)

吉田貴子さん (大山崎町)

〈青年農業士〉

橋本洋市さん (京都市北区)

発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15
<http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/>

TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909
平成28年2月10日発行